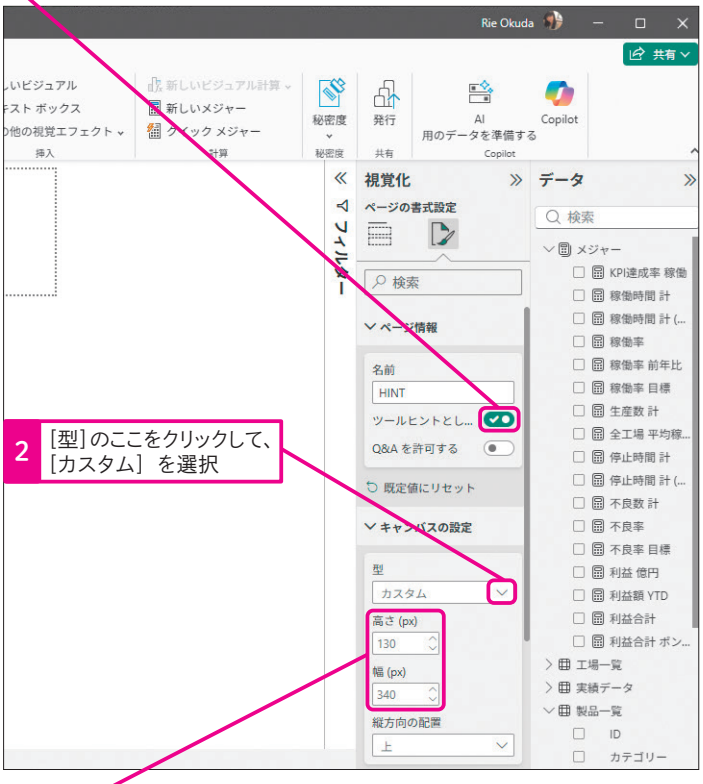
2 ヒントをツールヒントに変更する

レッスン34の153ページのスキルアップを参考に、ページを追加して名前を付けておく

ここでは「HINT」という名前を付けた

1 [ページの書式設定]で、[ページ情報]の[ツールヒントとして使用する]のここをクリックしてオンにする



2 [型]のここをクリックして、[カスタム]を選択

3 [キャンバスの設定]でページサイズを入力

ここでは高さを「130」、幅を「340」とした

レッスン38の手順2を参考に、テーブルを追加しておく

カテゴリー	稼働率	稼働率 目標	
タンク	93.46%	93.61%	99.84%
バルブ	93.48%	93.61%	99.87%
ポンプ	93.44%	93.61%	99.82%
コンプレッサー	93.19%	93.61%	99.55%
合計	93.41%	93.61%	99.78%

4 右の表を参考に、各項目の設定内容を入力

ビジュアルのサイズや書式を整えておく

● 手順2操作4の設定例

項目	設定内容
列	カテゴリー 稼働率 稼働率 目標 KPI達成率 稼働

使いこなしのヒント

ヒントは“ビジュアルごと”に設定が変えられる

ヒントの設定はビジュアル単位で管理されるため、詳細を表示したいグラフだけ項目を増やし、他のビジュアルは最小限のままにするなど、目的に合わせて個別に調整できます。これにより、ページ全体の情報量を抑えつつ、必要な部分だけ丁寧に補足できます。

使いこなしのヒント

ヒントページのサイズを調整しよう

ツールヒントでは、専用ページに配置したビジュアルがそのままヒントとして表示されるため、ページサイズを適切に設定しておくことが重要です。ページサイズが大きすぎると一部が見切れたり、レイアウトが崩れたりします。一方で、小さすぎる場合は、文字やビジュアルが詰まり、内容が読みにくくなります。ツールヒントとして表示された時に全体がバランスよく見えるよう、ヒントページ専用のサイズに調整することで、利用者がストレスなく必要な情報を確認できるようになります。ビジュアルを配置した後に再度調整しても問題ありません。実際に配置してみると、想定よりスペースが必要だったり、逆に余白が多すぎたりすることがあります。ページサイズは固定ではなく、内容に合わせて何度でも見直せるため、表示した時に最も見やすいレイアウトになるよう随時調整することが大切です。